

週日の説教

金 大烈 神父 2010年7月1日(木)

《全てのことが赦される》

今は時代が変わって、女の人あまり子どもを産まない時代になりましたね。だから、政策として子どもを産むことを勧めるキャンペーンなどを行っています。しかし、私が育った頃の1960年代終わり頃から1975年あたりまでの韓国には、『産児制限』という面白い制度がありました。日本にも同じようなものがあったのでしょうか。その制度のために、墮胎することは法律的に何も問題がありませんでした。「子どもは二人だけ産んで、上手に育てましょう」というようなキャンペーンがあったことを今もはっきり覚えています。その時代の産婦人科医であった、あるおばあさんの話を紹介させていただきます。

彼女は、多い日には一日に6人くらいの赤ちゃんを墮胎させたそうです。そして、お金もたくさんもうけたのでしょ。しかし年をとってから、そのようなことに良心の呵責を感じ、罪の意識で心が自由になれなかったようです。そして病院を引退してからは、何年も自分の家に閉じこもりきりの生活を続けました。誰かが訪ねてきても、いつも暗い顔ばかりしていました。そして精神的なものが原因となったのか、体の具合もだんだん悪くなりました。生きる意味も分らないけれど、死ぬことも怖くなり、前にも後ろにも動けない精神的なパニックの状態に陥ったそうです。

ある日、おばあさんの家の下の階に住んでいる若い女性が、偶然おばあさんの部屋にやって来る機会がありました。彼女は、「部屋の掃除でもしましょうか。」とおばあさんに話しかけました。しかしおばあさんは、「何もしてほしくないから出て行ってほしい。」と答えました。しかしその若い女性は、おばあさんがなぜこのように苦しんでいるのか、気になりました。そして、いろいろ想像してみました。医師として働いていたのだから、お金もたくさんあり、人生を豊かに過ごしたはずなのに、なぜこのような状況なのだろう、と。そして、「何がそんなに苦しいのでしょうか。」と聞いてみました。おばあさんは、「一言ではとても言えません。」と答え、「私は生きる資格もないし、死ぬ資格もない存在なのです。」と言いました。その話を聞いた下の階の女性は、無意識的に「神様は全てのことを赦されますよ。」と言いました。おばあさんは、『全てのことが赦される』という言葉に目が覚めました。そして「それはどういうことですか。ゆっくり説明してください。」と聞きました。すると、若い女性は「私はカトリック信者で、今までそのように信じて生きてきました。もし興味がおありならば、導きますのでおっしゃってください。」と言って、掃除をして、食事もして帰って行ったそうです。

翌朝そのおばあさんは、一番近くにある教会を訪れました。そして一年半くらい一生懸命に要理の勉強をして、復活祭に洗礼を受けました。その後、彼女の人生は180度変わりました。洗礼を受けて何日も経たないうちに、1人息子が交通事故で死んでしまいました。熱心な信者でも、そのような試練にぶつかり、信仰が揺れ動いてしまうのが普通です。しかし彼女は、“暗い過去から生き返らせ

てもらった" という体験により、落ちついた顔で司祭に、「私の息子は洗礼を受けたかったのですが、できませんでした。どうかお祈りをお願いします。」頼みました。そして周りの信者にも祈りを求めたそうです。

皆様、感謝の心が生じる原因にはどのようなことがあるのでしょうか。いろいろあると思います。しかし、人生の中で一番感動して、感謝が自然に出てしまうのは、「赦された」という体験ではないでしょうか。「洗礼を受ける前にいろいろな罪を犯しても、洗礼を受けたら、それまでの全ての罪は赦される」という考え方が2000年間固く守られてきたカトリックの信仰ですよ。洗礼を受けたら、まず「赦された」ことを実感できるように要理の勉強でも教えなければならないと思います。信仰の一番大きい意味は、「今までのいろいろな罪を赦された」と感じることです。「赦された」という個人的な体験ができれば、その人には信仰的な問題は全然ありません。しかし長い間信仰の生活をしていても、「赦された」という体験のない場合がほとんどです。

昔から「カトリック信仰は素晴らしい宝物を持っている。精神的な治療やいろいろな治療の方法があるけれど、一番素晴らしい治療法はたぶんカトリックの赦しの秘跡ではないか。」と専門家達の間でも話されています。苦しみを感じて、勇気を出して赦しの部屋に入り、「あなたの罪を赦します」という言葉によって癒されます。部屋を出るときには生き返った気持ちで、新しい時間を迎える。そういう姿を見たら、本当に不思議な力があると思います。私は赦しの秘跡を強調しようとしているのではなく、私たちには赦される体験が必要だと言っているのです。

今日の福音(マタイ 9:1-8)では、中風の病にかかった人にイエス様が、「あなたの罪は赦された。」と言います。そして本当に、病気の方はすぐに起き上って床を担ぎ、家に帰りました。この時中風の人が体験した心の働きは、どのようなものでしょうか。もし皆様が、イエス様から直接「あなたを赦す」というみ言葉を聞くことができれば、私たちはどういう気持ちになるのでしょうか。昔、イスラエル人はあらゆる病気は罪のせいだと思っていました。だから、イエス様は一番理解しやすいようにそのような話をなさったのだと思います。とにかく、私たちが死ぬときまで求めなければならないことは、『赦し』だと思っています。私たちには限界があります。限界があるから、必ず罪の中にいます。「私には罪は全くありません」といういちばん愚かな態度を私たちは捨てなければなりません。自分の罪を認めることができれば、相手に対しても正しく向き合えると思います。

皆様、今までずっと私たちは赦されてきています。それを実感してください。実感が出来れば、高慢な考えは自然になくなります。高慢な心では、絶対に感謝の心、生きる意味を分かることができません。

もう一回この福音を通して考えてみましょう。私たちは赦されています。今も、これからも。そういうことに感謝をしながら、もっと深い赦しの意味を自分のものにしましょう。

ありがとうございました。